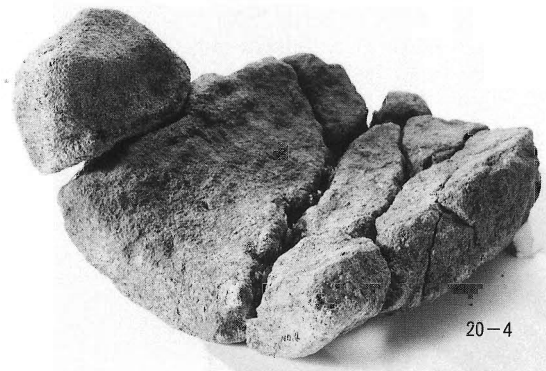
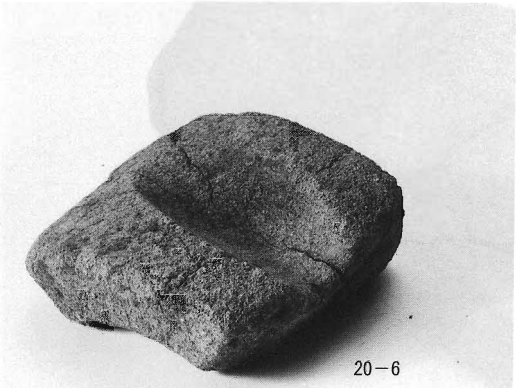
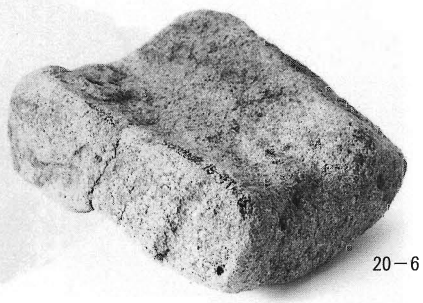


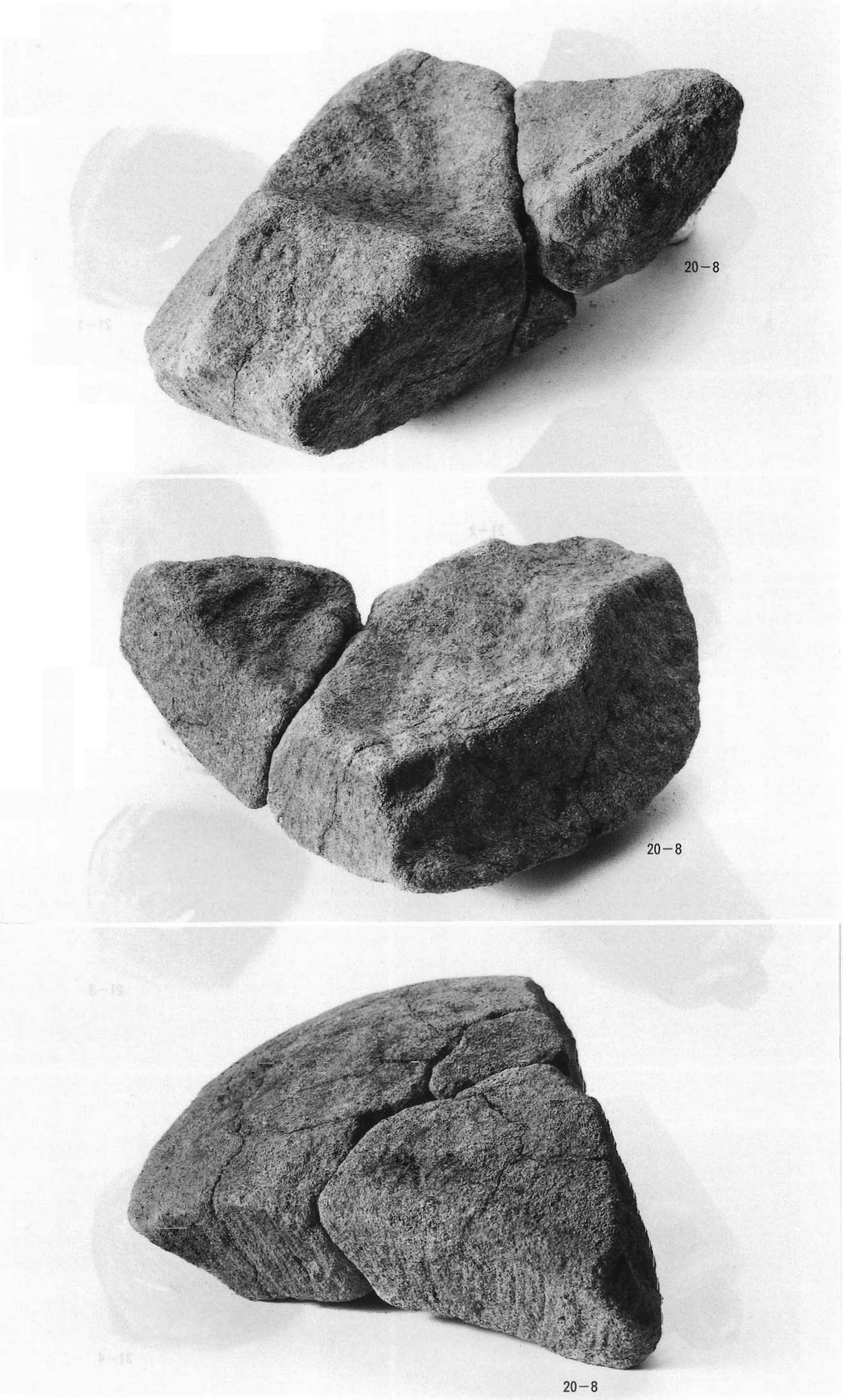




第 3 基壇出土石製擦管

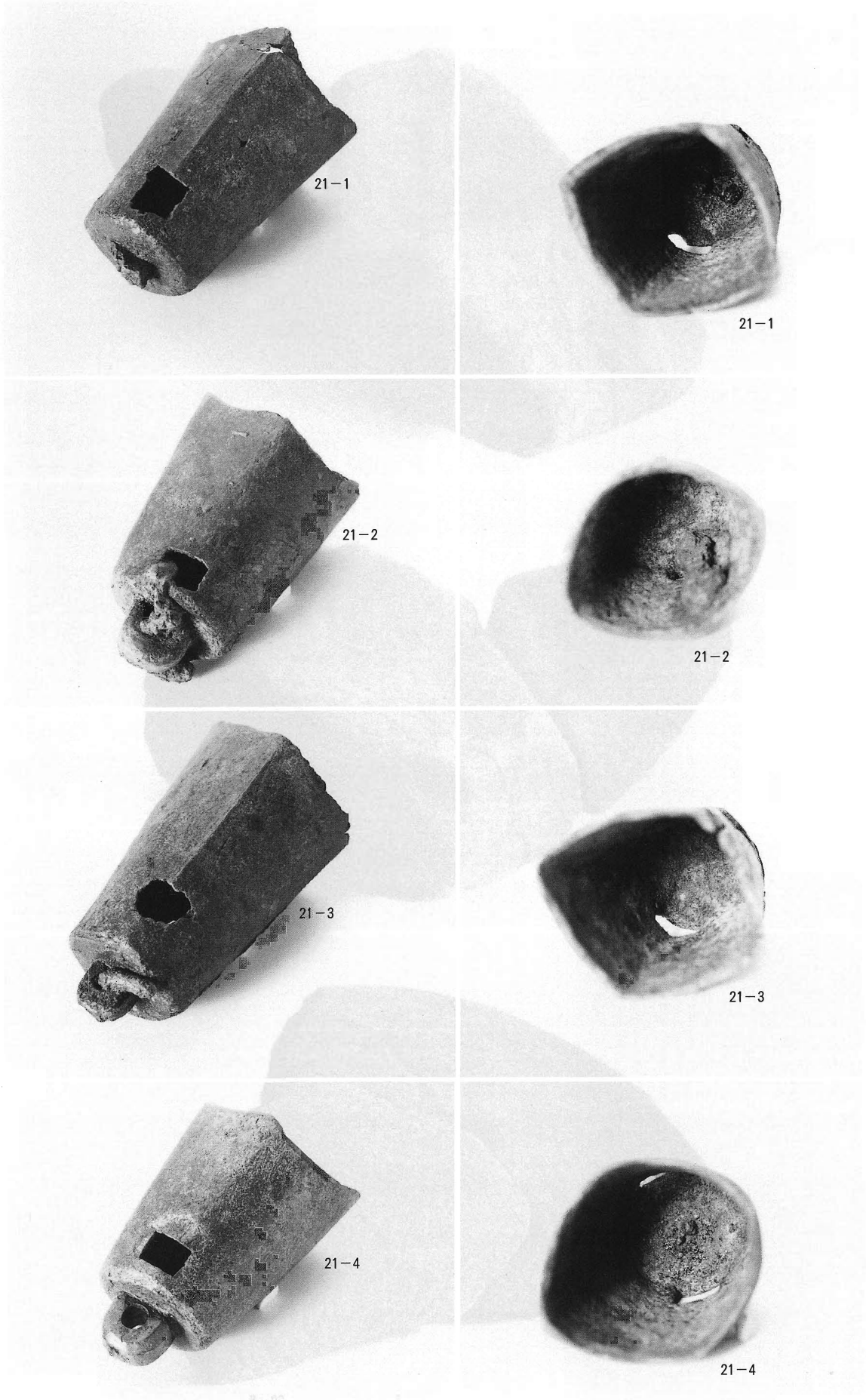
図版22

第 3 基壇出土石製擦管

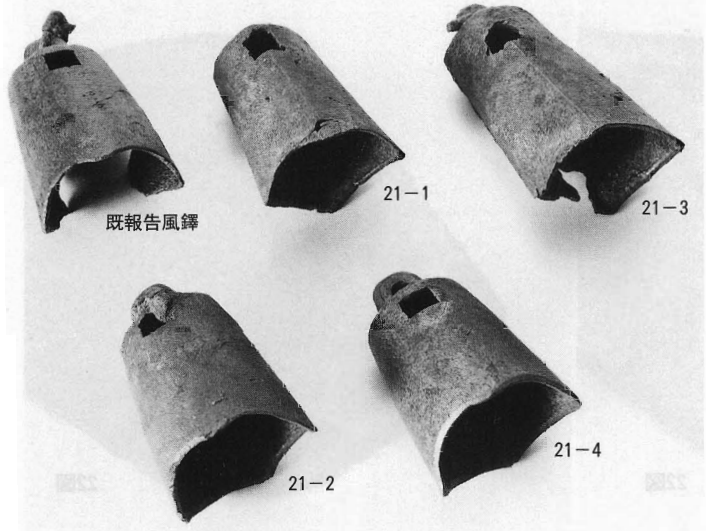


第３基壇出土石製伏鉢

図版24



第３基壇出土風鐸



既報告風鐸

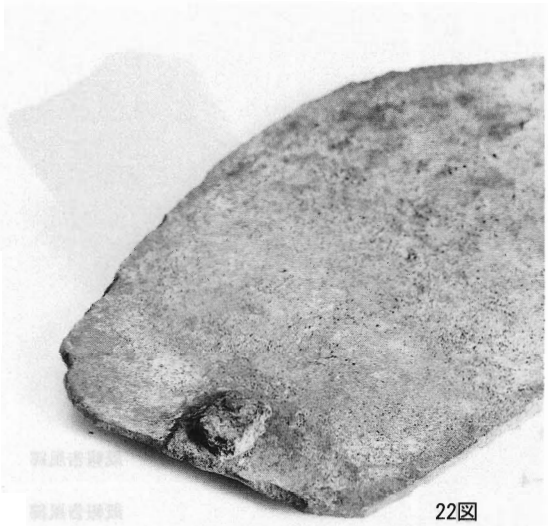
22図

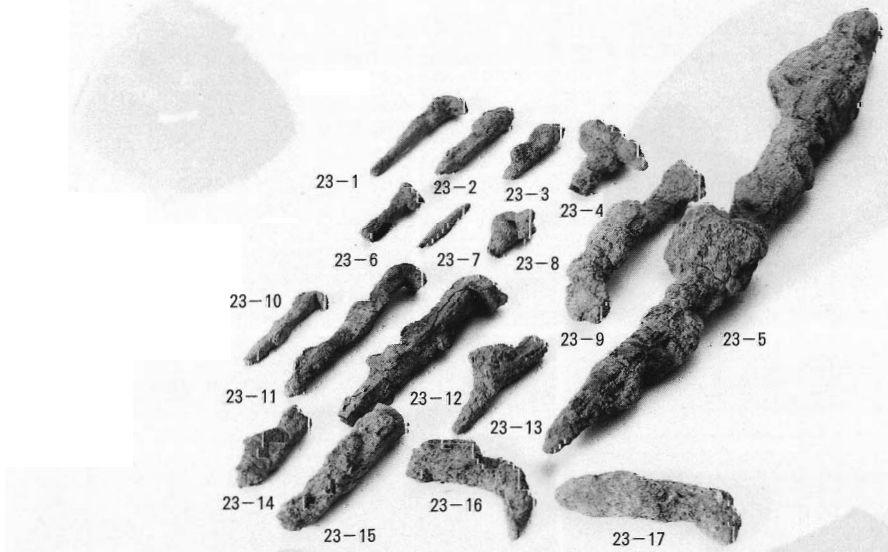
22図

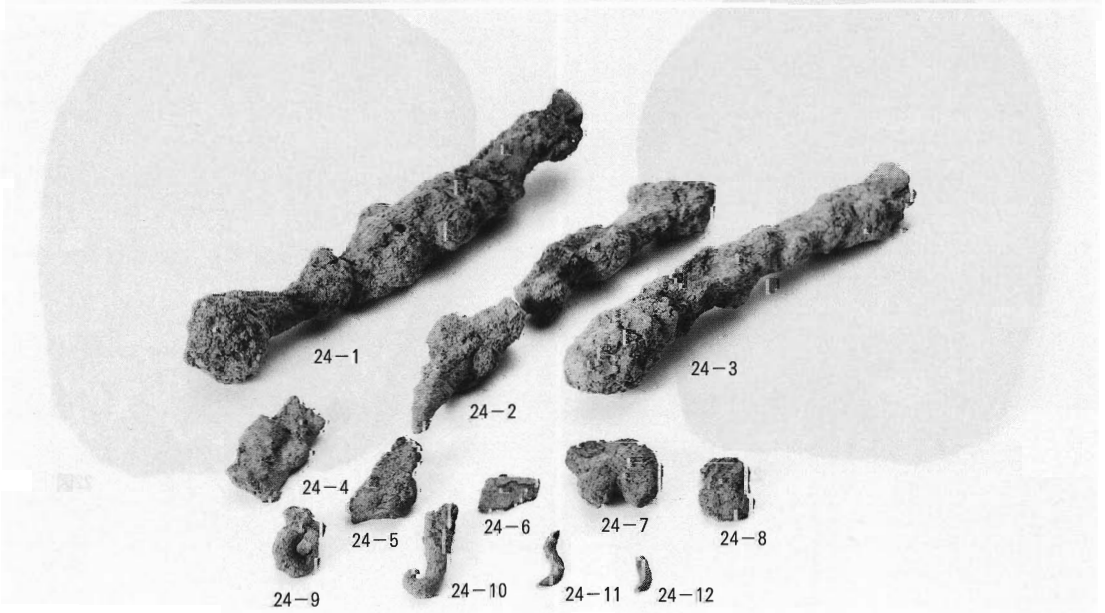
22図

第 3 基壇出土風鐸、蓮弁状銅製品

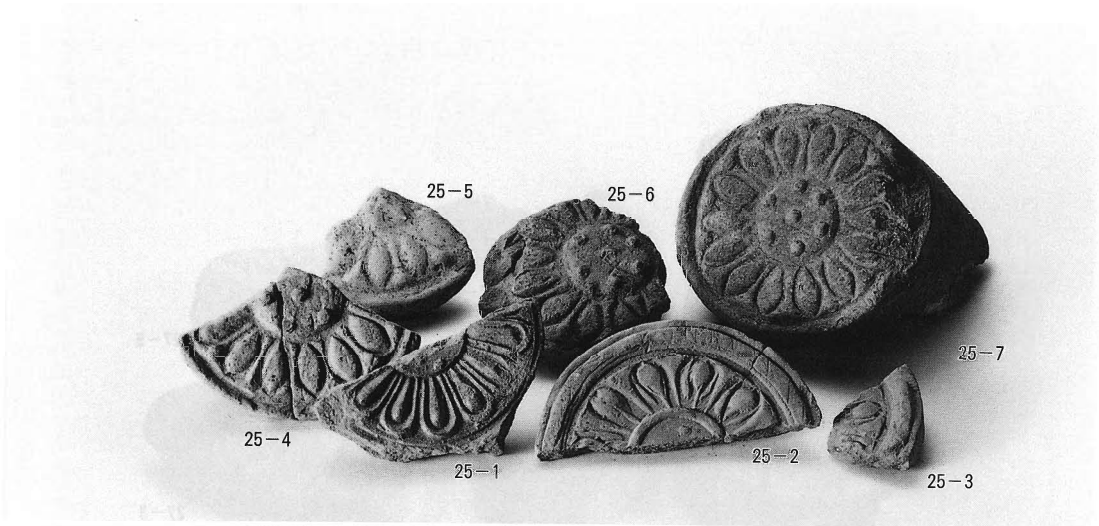
図版26



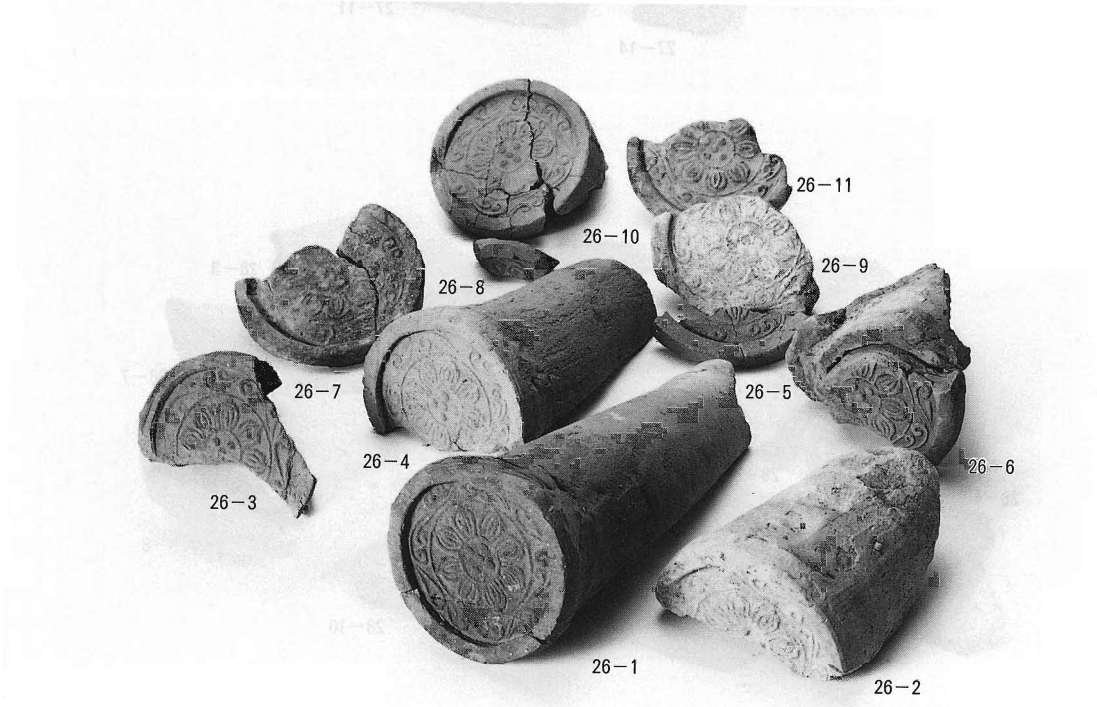




第３基壇出土蓮弁状銅製品、第１・３基壇出土鉄・銅製品

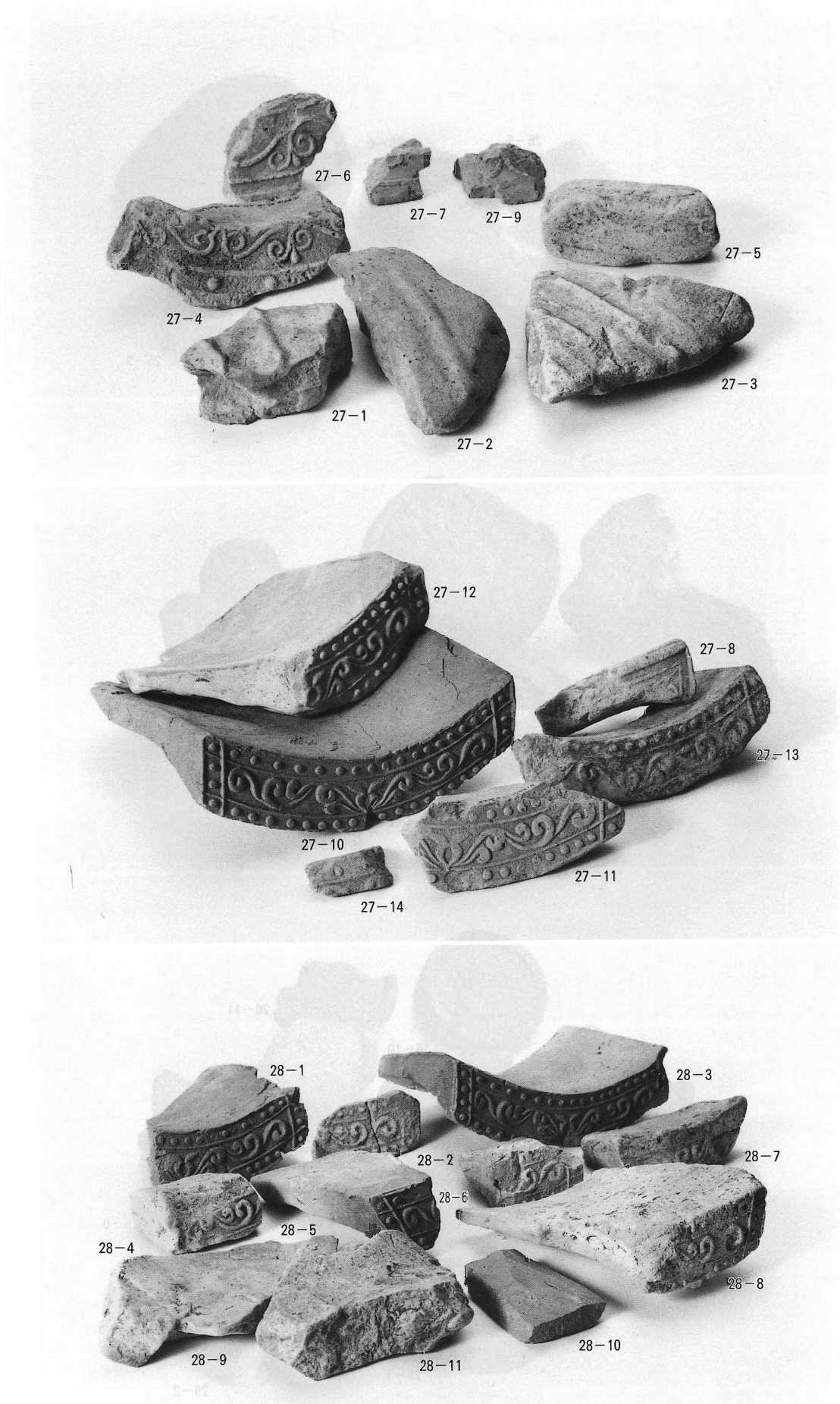

25－5
25－6
25－7
25－4
25－1
25－2
25－3

25－15
25－9
25－10
25－12
25－11
25－14
25－16
25－8
25－13

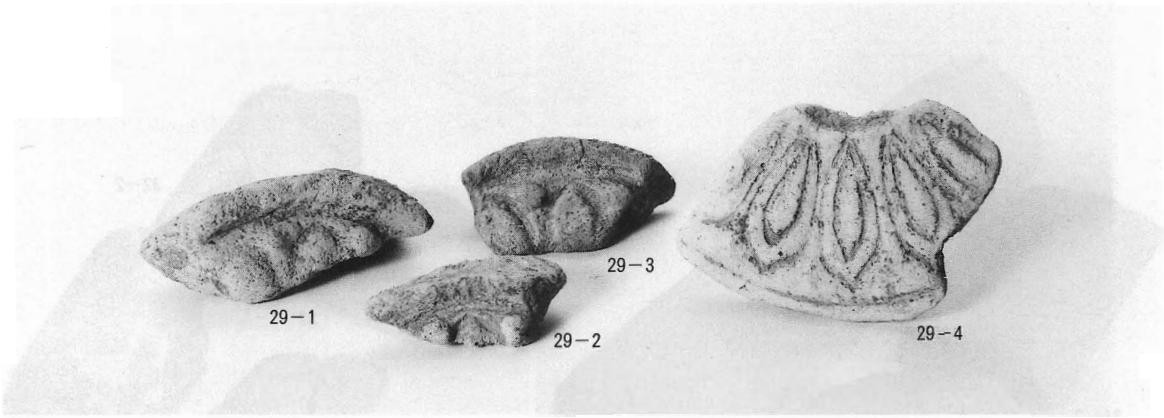

26－11
26－10
26－9
26－8
26－7
26－5
26－6
26－4
26－3
26－1
26－2

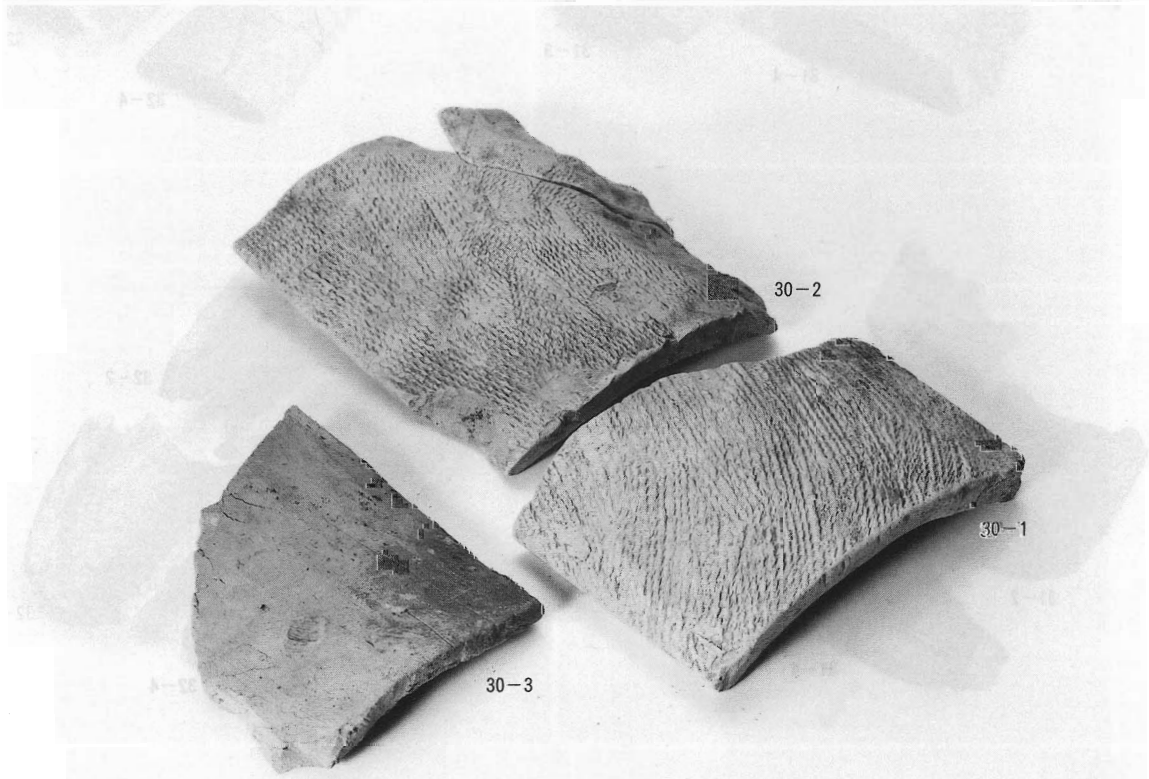
第１・３基壇出土軒丸瓦

図版28



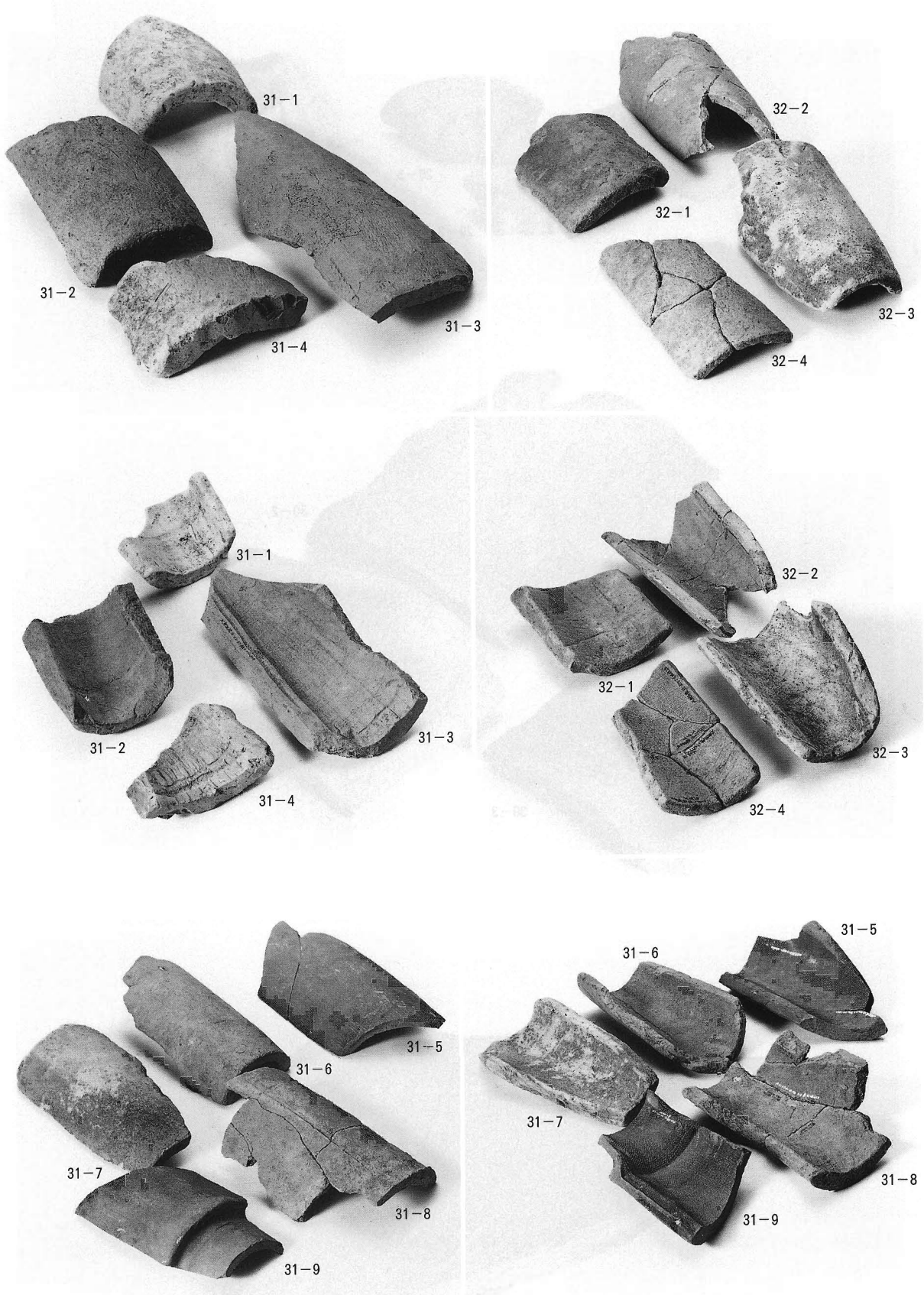
第１・３基壇出土軒平瓦



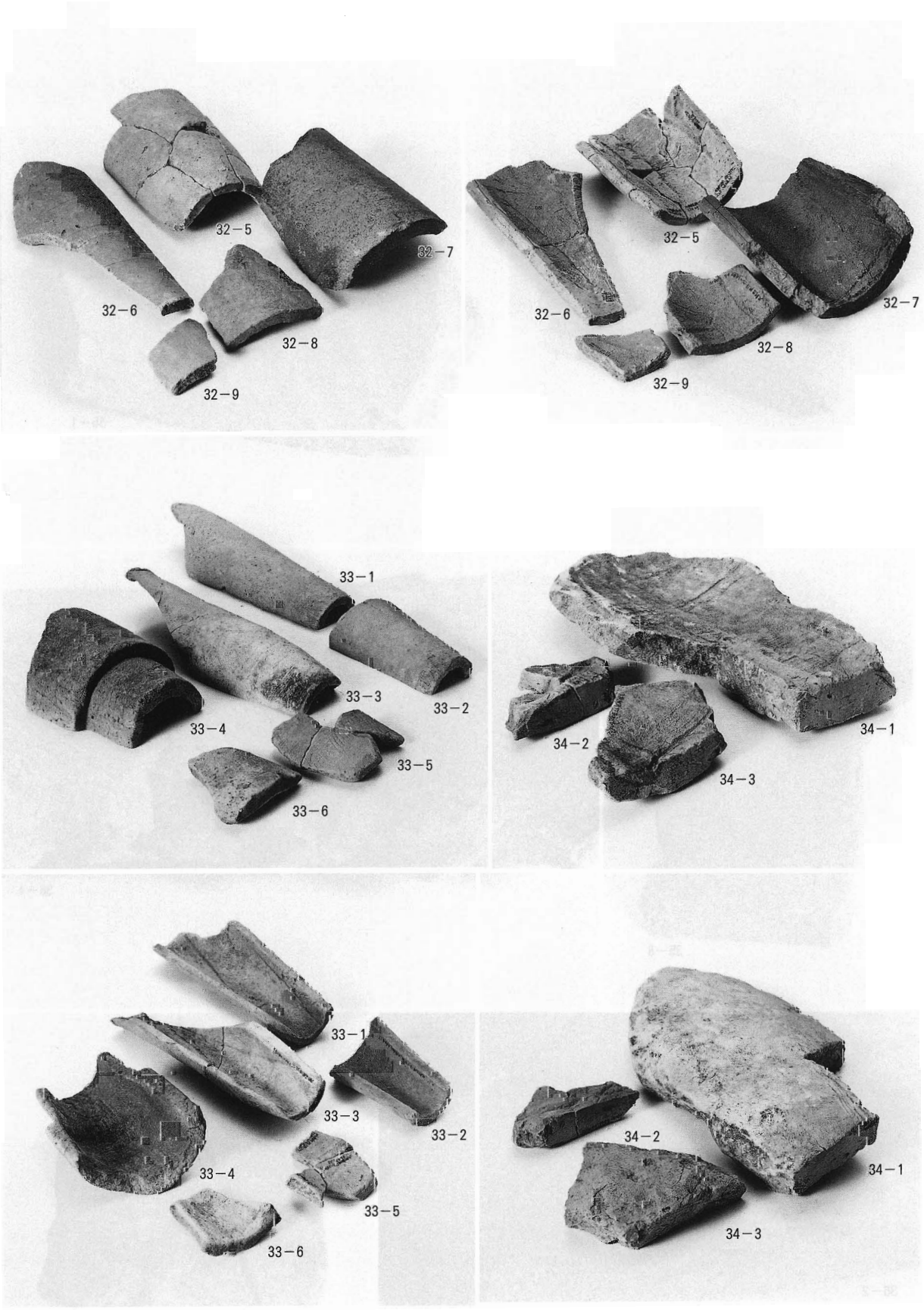


第１・３基壇出土軒丸瓦、軒平瓦、隅切り瓦

図版30

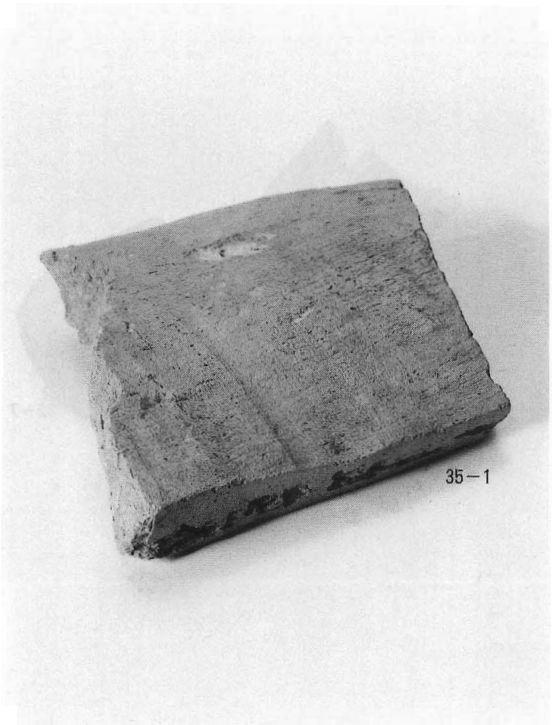


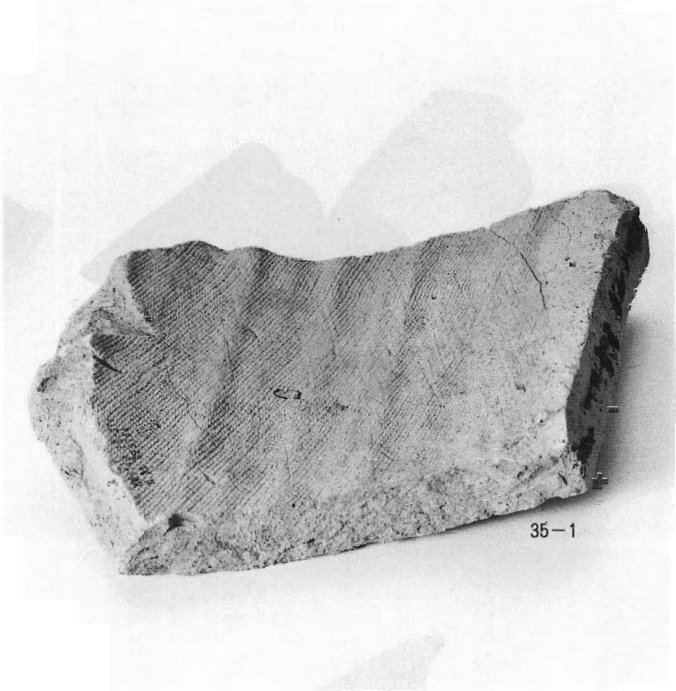
第１・３基壇出土丸瓦

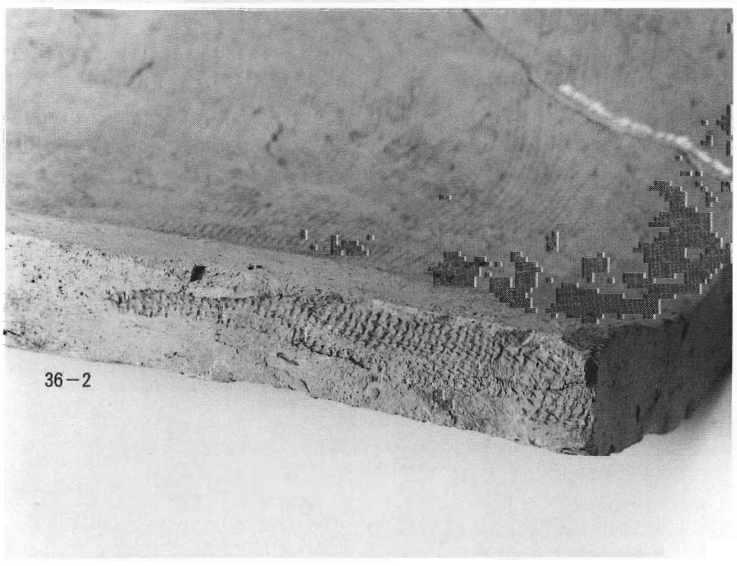


第１・３基壇出土丸瓦・平瓦

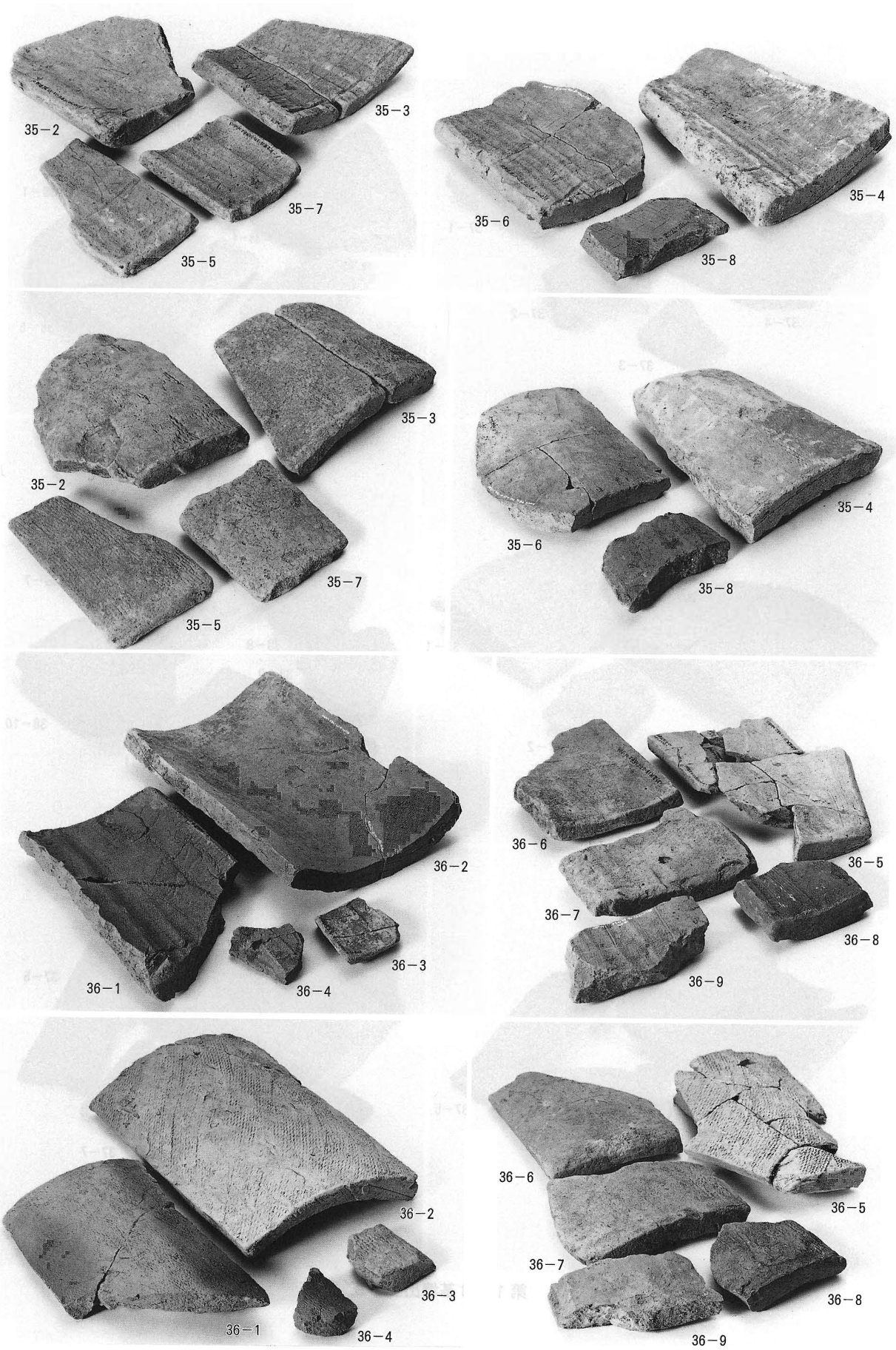
図版32





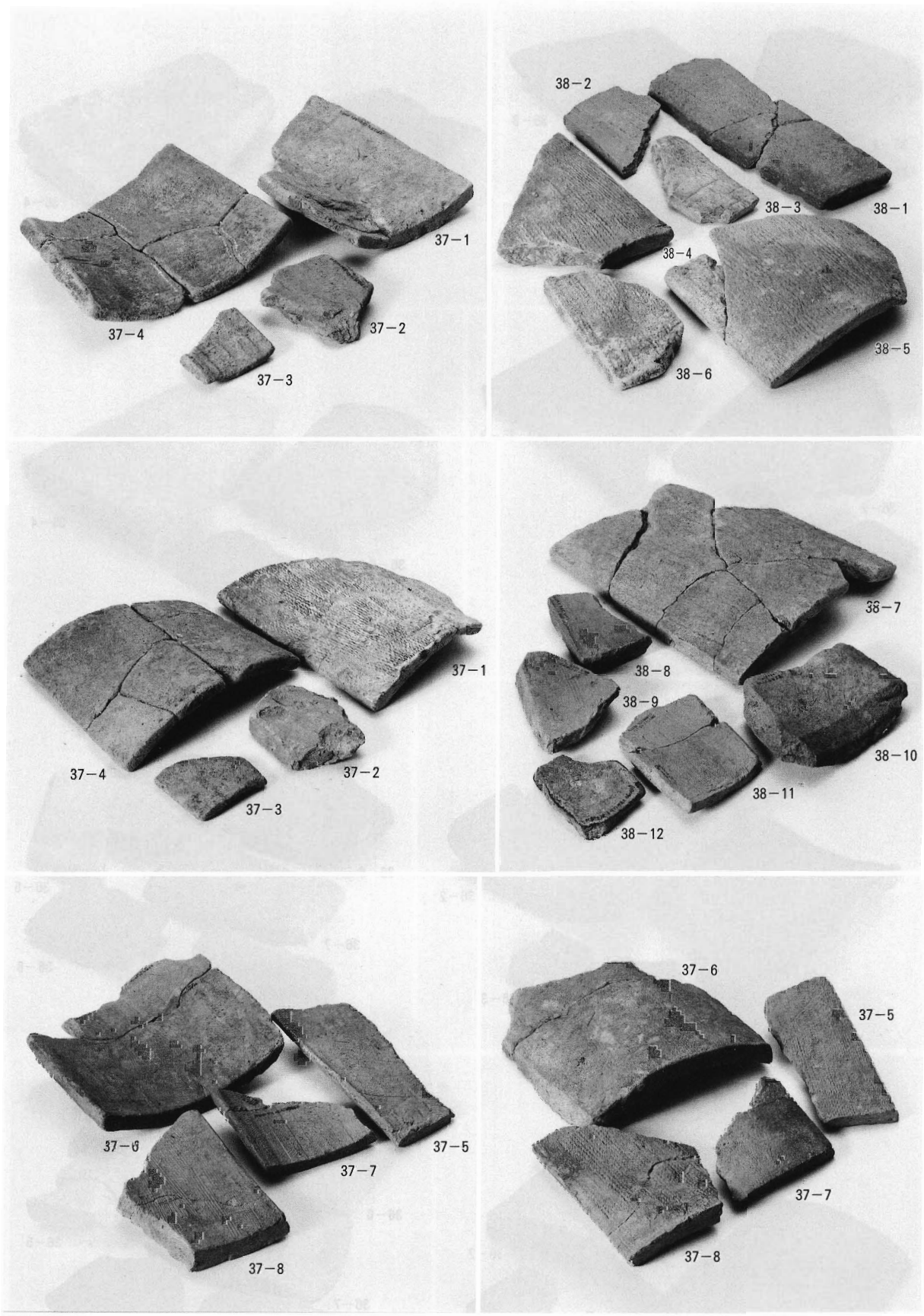


第１・３基壇出土平瓦

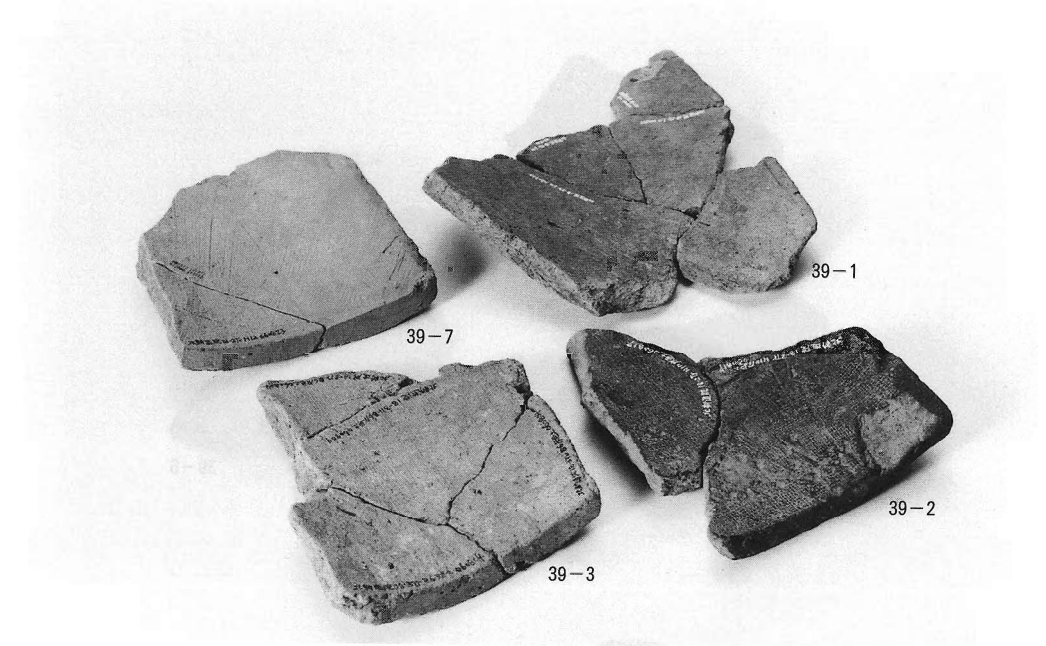

35－2
35－3
35－7
35－5
35－6
35－4
35－8
35－2
35－3
35－7
35－5
35－6
35－4
35－8
36－2
36－1
36－3
36－4
36－6
36－5
36－7
36－8
36－9
36－2
36－3
36－1
36－4
36－6
36－5
36－7
36－8
36－9

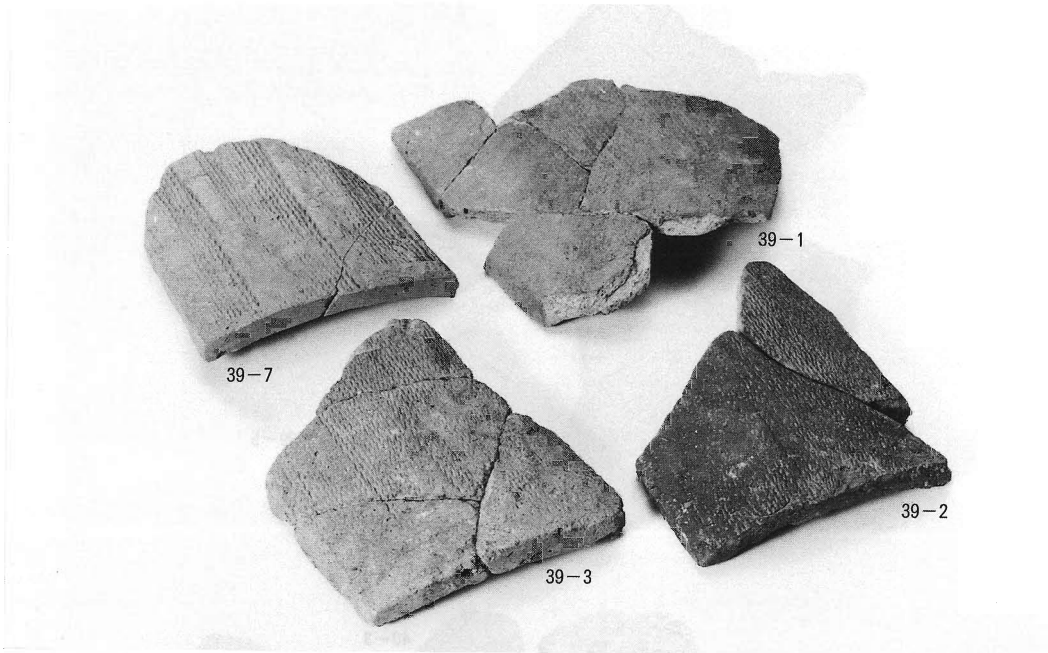
第１・３基壇出土平瓦

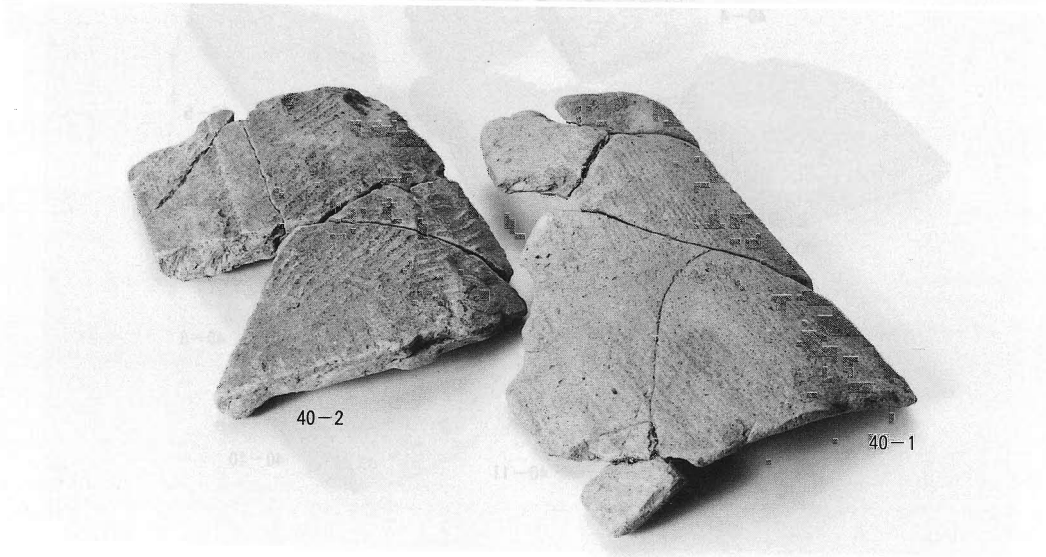
図版34



第１・３基壇出土平瓦

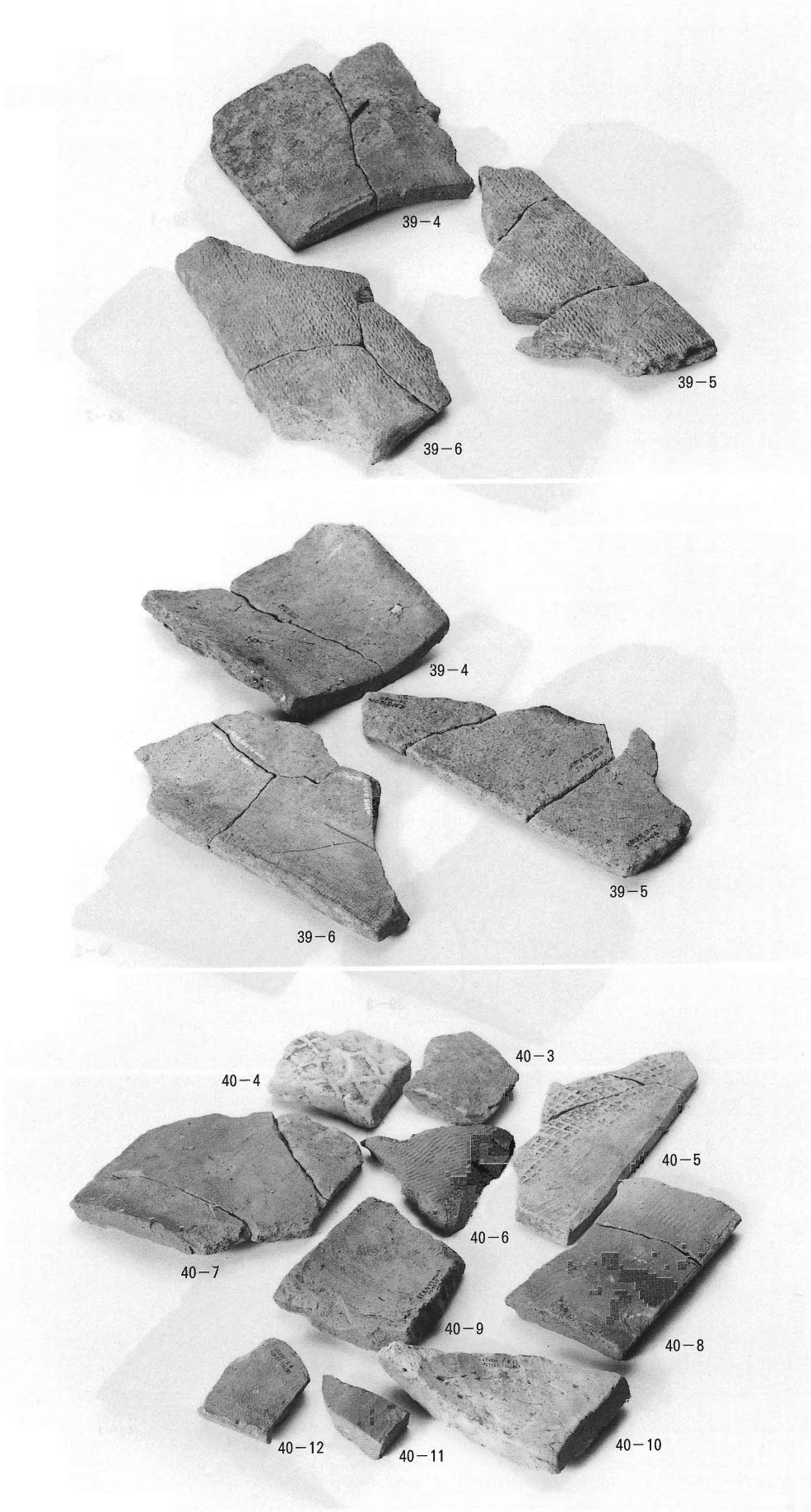




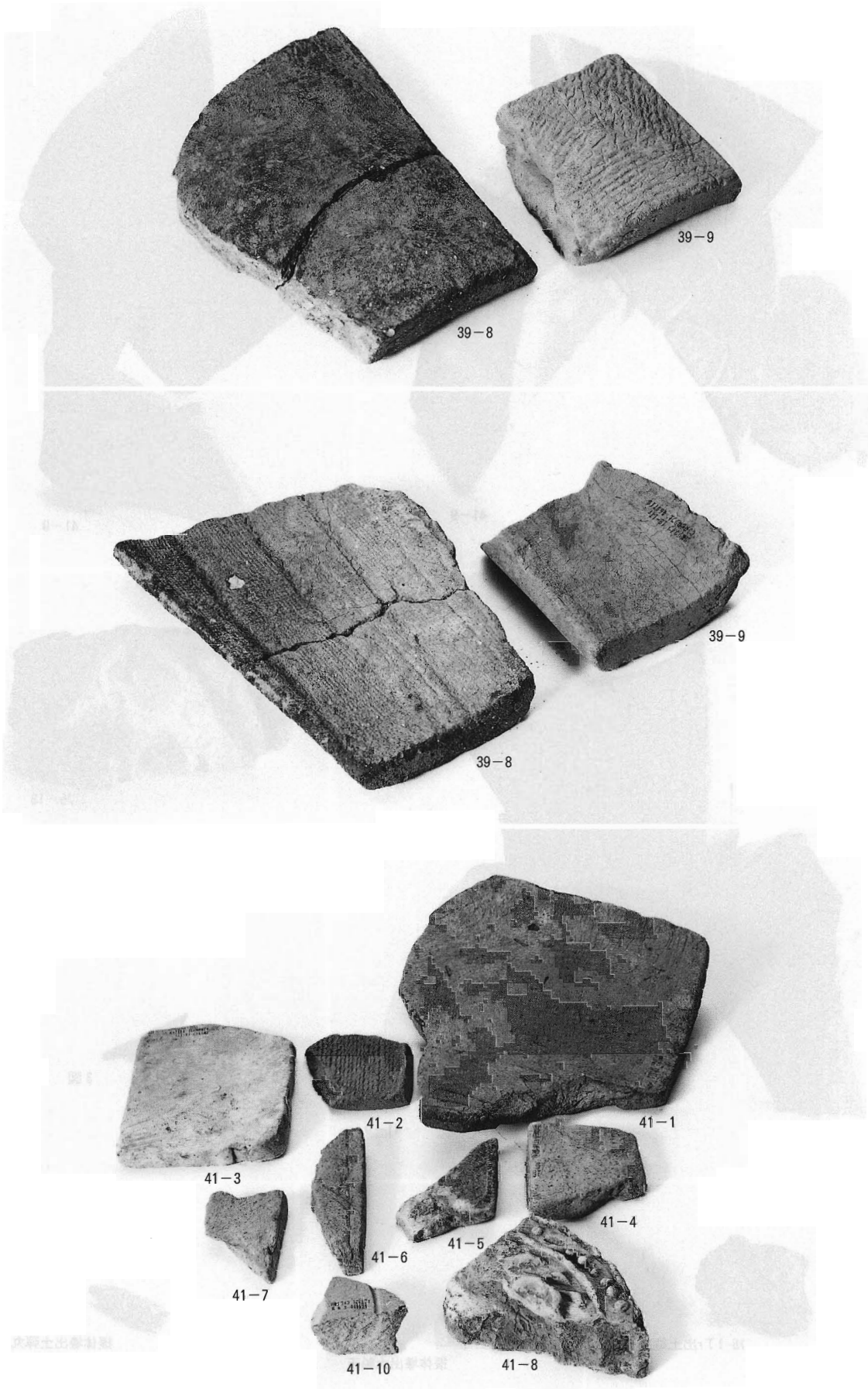


第１・３基壇出土平瓦

図版36

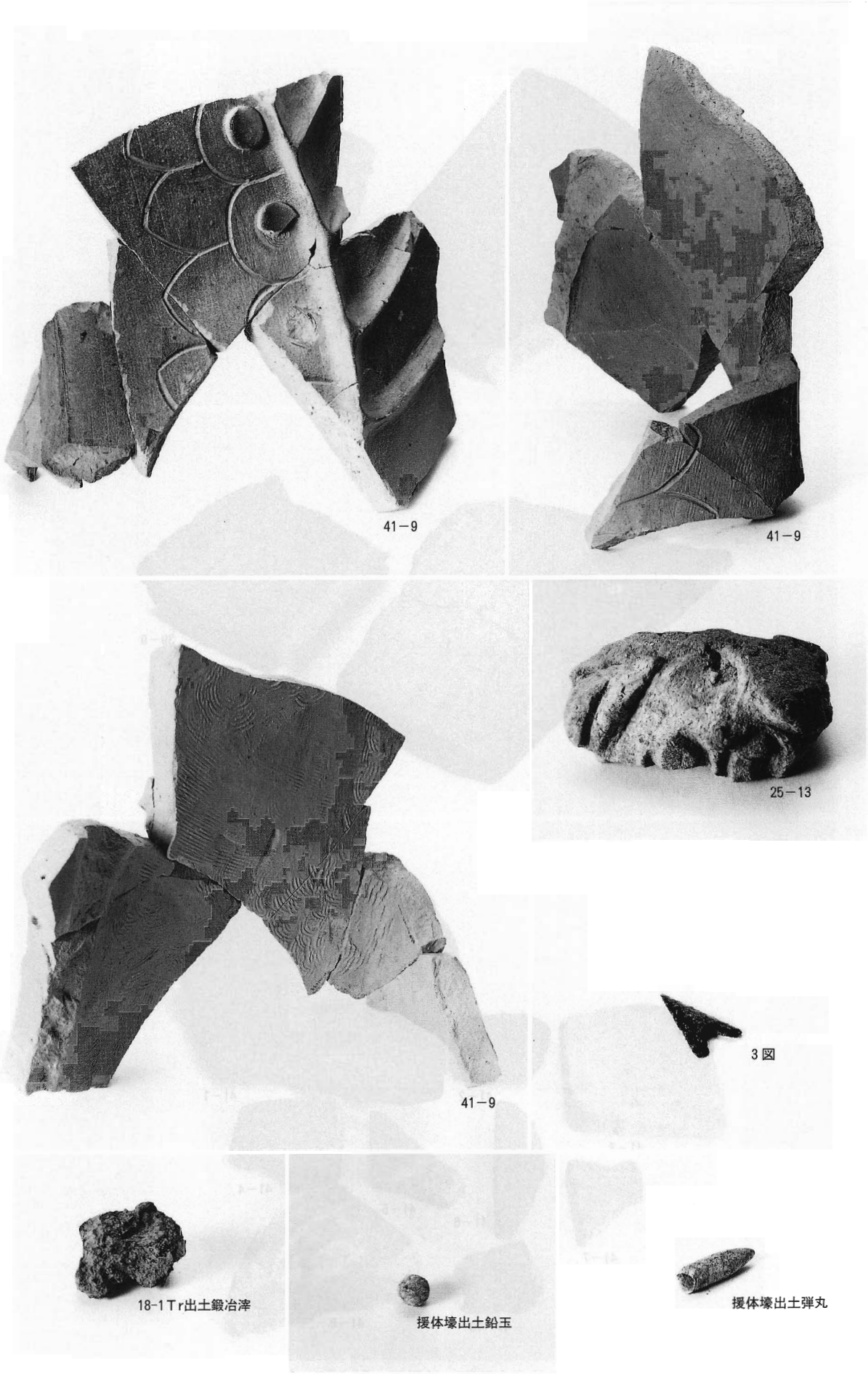


第１・３基壇出土平瓦



第１・３基壇出土平瓦、面戸瓦・熨斗瓦・鬼瓦・鴟尾

図版38



鴟尾、第１・３基壇出土軒丸瓦、山代郷北新造院跡採取石鏃、
18-3Tr出土鍛冶滓、援体壕出土鉛玉、援体壕出土弾丸

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきやましろごうきたしんぞういんあと
書名	史跡山代郷北新造院跡
副書名	出雲国山代郷遺跡群北新造院跡（来美廃寺）発掘調査報告書
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	林　健亮　・　東森　晋
編集機関	島根県教育庁文化財課 URL:http//www.pref.shimane.lg.jp/bunkazai/
編集機関の所在地	〒690-8502　島根県松江市殿町１番地　　TEL0852-22-5880（代） E-mail:bunkazai@pref.shimane.lg.jp
発行年月日	2007（平成19）年

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号				
ヤマシロゴウ 山代郷 キタシンゾウインアト 北新造院跡	シマネケン 島根県 マツエシヤダチョウ 松江市矢田町	32201	D－231	35° 26′ 22″	133° 05′ 40″	050722～050823 060620～060901	重要遺跡 内容確認

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
山代郷 北新造院跡	寺院跡	奈良時代 平安時代	塔跡	石製相輪・風鐸 鴟尾・瓦類・須恵器・土師器

要約

『出雲国風土記』記載の山代郷北新造院跡の調査。平成13年度までの発掘調査によっても、性格が明らかでなかった第１・３・４基壇について調査を行った。その結果、第３基壇が塔であったことを確認し、第１基壇も塔、第４基壇を講堂と推定した。山代郷北新造院は金堂の東西に塔を置き、金堂の南西側に講堂を配した、特殊な伽藍配置を取っていたと考えられる。各基壇上の建物は７世紀末頃から９世紀初頭までにかけて順次造営されていった。また、第３基壇からは、全国的にも類例の少ない、石製相輪が出土した。石製相輪は、水煙を欠き、天蓋を持つ特殊な相輪であったと考えられる。

北緯・東経は日本測地系による。世界測地系：北緯35°26′33″ 東経133°05′30″

山代郷北新造院跡

出雲国山代郷遺跡群北新造院跡（来美廃寺）発掘調査報告書

2007（平成19）年3月

発行・編集　島根県教育庁文化財課
〒690-8502 松江市殿町1番地

印　　刷　株式会社　報　光　社
出雲市平田町993番地